

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙２）

団体名	特定非営利活動法人キーパーソン２１
-----	-------------------

取組の名称	武蔵小杉“わくわく”学習室 「通称こすわく」		
実施場所	川崎市中中原区新丸子東 2-907 ハイツ武蔵小杉 704		
対象地域	川崎市全域 主として中原区		
対象地域の 特色・課題	1. 困窮度の高い家庭の子ども 2. 家庭の事情等で登校拒否の子ども 3. 障害等の事情で学齢期に学校に行けなかった子ども		
取組の趣旨・目的	● 川崎市在住の生活保護受給家庭で育つ中高生に加え、生活困窮家庭で育つ子どもたちを対象にしている。 ● 不登校の子どもも別クラスで行っている。 ● 川崎市、及び中原区保護課と連携して取り組んでいる。		
実施内容・実施スケジュール	学習教育：週１回 不得意科目克服、学校での成績アップ ・開講 18:30～20:30 年間 48 回 不登校者対応教室： 不登校のこどもの事情に合わせ面談及び Zoom によるマンツーマン教育を実施 年間 53 回 うち参加 1 回		
参加者の年代	小 6～中 3 及び 高校生	定員 (１回あたり)	通常学習 5 人 不登校対応 1 人
実施頻度	学習教室：週 1 回 不登校対応学習： 4 回/月	活動日数 (年間)	学習教室：48 日 不登校学習：53 回

スタッフ体制	学習：専任講師 1 名 不登校：専任講師 1 名
連携する団体・ 連携の手法	ケースワーカーさんや学校の先生からの紹介で来室した子どもに関しては、本人の様子や問題点に気付いた時には、報告、ご相談をし、連携させて頂いています。 こすわくに来室した日を出席扱いにして頂くため、本人の通う学校へ「活動報告」を毎月お送りさせて頂いています。
取組実施により 見込まれた効果	小学生時から不登校の子ども(現在中学 2 年生・ひとり親)で、小学校 6 年生から母親と一緒に、こすわくへ通って来ていた緘黙の児童に対し、足し算・引き算からマンツーマンで学習を行っていました。真面目に学習に取り組み、集中力もありましたが、緘黙が改善されず、学習中も常に横にいる母親との母子分離が必要と感じ、中学校の担当教員にも相談し、中学 2 年生になった今年度、引越しを機に自宅から徒歩 10 分の立地にある中原わくわく学習会「なかわく」への教室転移を勧めました。なかわくは多くの子どもが通っていますが、集団にも馴染むことが出来、緘黙も若干ではありますが、改善がみられています。 なかわくへは欠かさず出席してくれ、3 月には皆勤賞を頂きました。 高 3 生 1 名が国土舘大学理工学部建築学科合格しました。